令和２年６月８日
原子力エネルギー協議会

第４回意見交換会（6/1（月））の指摘事項に対応する対応状況について

○　第４回意見交換会で口頭にてご質問・ご指摘いただいた点については、以下のとおり対応しています。

・資料２－１「「プラント長期停止期間中における保全ガイドライン」の作成にあたり参考とした現場経験及び知見とその反映について」の別紙４（以下「別紙４」という。）について、技術ベース１として、ATENA ガイドラインの添付資料①③が紐づけられているが、根拠として明確に読み取れないところが見られるため、不要なものは削除が望ましい。
⇒　一般論としての長期停止期間中の経年劣化要否について、個別機器・構造物の説明と整合していることを示すために、添付資料①③を引用しておりましたが、補足説明事項及び文献にて、添付資料①③によらずに経年劣化影響を説明できるよう記載しているため、全ての経年劣化事象について、添付資料①③の記載を削除しました。

・別紙４文献のうちクラッド下層部き裂について、BWR の内容を充実化することが望ましい。
⇒　文献[UCC2]の記載を充実化しました。

・別紙４文献のうち文献[腐食１]の引用図で示されている腐食量の温度依存性について、150～200℃程度の温度が腐食量のピークとなっている理由についてメカニズムを記載することを検討してほしい。
⇒　文献[腐食１]に、指摘のありましたメカニズムの記載を追加しました。

・資料２－５「資料２－１の一部改訂について（当該部抜粋）」の表９「別添 A において整理した分類の凡例と考え方（①：資料 2-1　表９変更案）」（以下「表９」という。）で示されている PLM 評価書の事象分類との整合性等に疑問がある。
⇒　資料２－４にて回答します。
　なお、ガイド別添 A の分類（有・無①・無②）については、今回見直すこととし、技術的に分類した分類 1～5 を踏襲して分類し直しています。表９をご確認ください。（表９：資料２－１のＰ１０～Ｐ１１）

・表９で示されている経年劣化事象のうち摩耗が、無②とされていることに疑問がある。

⇒　摩耗については、地震が劣化要因として想定されることから、別紙４の補足説明資料の記載及び表９の記載を充実化しました。

・なお、参考資料１「プラント長期停止期間中における保全ガイドライン等に関するコメント」については、資料２－３に回答を示しています。

・コンクリート構造物の機械振動・アル骨・凍結融解の分類の考え方については、前回会合の資料２－３に記載していますが、その内容については、今回会合資料２－１の別紙４に反映しています。

○　その他、提出資料に関する補足。

・表９において見直した分類（1～5）については、現時点で保全ガイド・資料２－１別紙４に未反映ですが、次回会合の意見交換結果も踏まえた上で、次々回に一式で反映し提出する予定です。

以　上